

## 2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月12日

上場会社名 株式会社マミーマート 上場取引所 東  
 コード番号 9823 URL <http://www.mammymart.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩崎 裕文  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 岩本 潤 TEL 048 (654) 2514  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 2023年6月12日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年9月期第2四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	70,496	7.7	2,827	△13.5	3,086	△12.2	1,859	△22.2
2022年9月期第2四半期	65,447	—	3,269	△2.7	3,516	△2.3	2,388	0.3

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 1,899百万円 (△20.8%) 2022年9月期第2四半期 2,398百万円 (△0.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	174.69	—
2022年9月期第2四半期	224.51	—

(注) 2022年9月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。営業収益に大きな影響が生じるため、2022年9月期第2四半期の営業収益の対前年同四半期増減率は記載しておりません。なお、2021年9月期と同様の基準で算出した2022年9月期第2四半期の営業収益は71,212百万円(6.7%増)となります。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期第2四半期	60,600	33,600	55.4	3,152.92
2022年9月期	60,919	32,063	52.6	3,010.06

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 33,568百万円 2022年9月期 32,033百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	30.00	—	35.00	65.00
2023年9月期	—	32.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	—	—	28.00	60.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	134,300	1.0	4,290	△13.5	4,740	△12.7	3,000	△12.3	281.94

（注1）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	10,796,793株	2022年9月期	10,796,793株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	149,837株	2022年9月期	154,614株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	10,643,771株	2022年9月期2Q	10,639,194株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ①業績数値

当第2四半期連結累計期間の連結営業成績は、営業収益70,496百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益2,827百万円（同13.5%減）、経常利益3,086百万円（同12.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,859百万円（同22.2%減）となりました。

セグメント別の営業状況は以下の通りです。

#### (スーパーマーケット事業)

売上高 69,075百万円（前年同期比 7.8%増）  
セグメント利益 2,794百万円（前年同期比13.8%減）

セグメント売上高は様々な商品の値上げが相次ぐなか、お客様の暮らしを守ることを最優先に考え、引き続き、食品や日用品等の低価格維持に努めると共に、当社の強みである美味しさに磨きをかけた簡便・即食の惣菜や需要が高まる冷凍食品の品揃えの拡充等により、好調に推移しました。また3月に昭島中神店（東京都昭島市）を「生鮮市場TOP！」へ業態転換させる等、今後のさらなる成長を見据えた既存店の活性化投資も積極的に実行してまいりました。

セグメント利益は、電力料金をはじめとする水道光熱費の高騰、原材料調達価格の上昇等の影響により減益となりました。経費対策として、ローコストオペレーション運営に基づき、LSP（Labor Scheduling Program）による最適な人員配置の仕組みを構築し、さらなる業務効率改善に努めてまいります。

また、DX施策として、AI需要予測による自動発注システムの本格導入に向け、予測精度向上のための検証に取り組んでおります。



「生鮮市場TOP！昭島中神店内の様子」

#### (その他の事業(温浴事業・葬祭事業))

売上高 220百万円（前年同期比 9.3%増）  
セグメント利益 32百万円（前年同期比21.7%増）

温浴事業は、改装による設備等の更新やSNSの活用による新規入浴キャンペーンの実施などが好評をいただき、来店客数が増えたことで業績も回復してまいりました。

葬祭事業は、認知度を向上させ、ニーズに沿った提案で好調な業績で推移しております。

2023年3月31日現在の店舗数は、温浴事業・葬祭事業を含めて80店舗であります。

②企業の経営方針及び取り組み

当社グループ（当社及び連結子会社）は、「Enjoy Life!」（※）のグループコンセプトのもと、マミーマートに関わるすべての「人」が食を通じて幸せになることを目指しております。

さらなる成長に向け、2023年9月期は「ディスティネーションストアへの進化」をスローガンに、2つのフォーマット「生鮮市場TOP!」・「マミープラス」の成功を目指してまいります。改装による業態転換、完成度を一層高め、トップライン（売上高）の拡大を果たすことを重要成功要素と位置づけ邁進してまいります。

（※）「Enjoy Life!」とは、地域のお客様に毎日の食生活を通じて、健康で笑顔あふれる豊かな人生を楽しんでいただくことを応援する、マミーマート独自のコンセプトです。

〔生産性の飛躍的な向上に向けた2つのフォーマットの確立〕

・「生鮮市場TOP!」

「Always New～いつでも新鮮があるところ～」をブランドテーマに掲げ、お客様が来店する度に、「食材」・「情報」・「体験」の新たな「新鮮」を感じてもらうことを目指しております。

〈食材の新鮮〉「料理好きが週に一度通いたくなる店」を目指し、生鮮食品を中心に、食品スーパーではなかなか見かけない食材を各部門にて取扱い、TOP!ファンを日々獲得しております。なお、メディアでも多く取り上げられ、その反響も日増しに大きくなっていると感じております。

〈情報の新鮮〉前期より生鮮市場TOP!専用のInstagramを開設し、商品に関する「新鮮」な情報等を発信しております。お客様に健康的で笑顔溢れる食卓を提供するため、一部店舗に常駐するヘルシーコンシェルジュ（管理栄養士）がメニュー提案等を実施しております。

〈体験の新鮮〉広域商圏のお客様に「他にはない買い物体験」をしていただくため、従来型のディスカウントとの差別化をはかっております。一般のお客様だけでなく、“料理好き”のお客様も通いたくなる、また週末・ハレの日需要を取り込む一方で、日配・グロサリー商品のEDLP（Every Day Low Price）により、日常使いにも対応し、いつ、どんなお客様にとっても欲しい商品・有益な情報を提供してまいります。

・「マミープラス」

「家計にプラス・満足をプラス・美味しさをプラス」をコンセプトに現在2店舗を展開しております。地域で一番、多品目が圧倒的に安いことで、小商圏のお客様の日常使いとして、便利で生活に様々なプラスの価値を提供する店舗を目指しております。運営における特徴として、生鮮食品において製造効率の良い外注加工を最大限活用し、店舗における作業工数を減少、コスト削減を実現させることで、低価格を実現し、集客へつなげております。即食として需要の高い惣菜商品の売場拡大を行う等、需要に応じた品揃えの充実も行っております。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会主催「お弁当・お惣菜大賞2023」では、全国14,000品を超えるエントリー商品の中から、最優秀賞2品、優秀賞1品、入選12品の計15品で受賞しました。今年で10年連続受賞となり、総受賞数は累計で90品に達し、業界最多記録を更新し続けております。前期製造工場を拡張した子会社彩裕フーズが高品質で話題性のある商品を工場で一括製造することで、高い生産性を実現させております。

1万点を超えるエントリーから選ばれました!

Bento and Prepared Meal Awards  
お弁当・お惣菜大賞2023

最優秀賞

1万点を超えるエントリーから選ばれました!

Bento and Prepared Meal Awards  
お弁当・お惣菜大賞2023

最優秀賞

二種海苔と胡麻が香る  
一口海老天重

浜名湖産青海苔香る  
鮎めし

海老天丼と天むすのいいとごどろ! W海苔の風味と海老のハーモニーが最高です。付風のナイフで一口サイズに切り分けられます。

鮎の頭からしっぽ、骨まで丸ごと美味しく食べられます! 箸でほくして、ご飯と薬味を混ぜてお召し上がり下さい。

「一般社団法人全国スーパーマーケット協会主催「お弁当・お惣菜大賞2023」最優秀賞」

〔下支えする仕組みの構築〕

・「物流2拠点体制」

2022年7月から三郷物流センターを稼働したことにより、現在、川越物流センターと2拠点体制となり、売上増に伴う物流増加への対応、配送距離の短縮によるコスト削減、安定供給等、物流における負担・リスクに対応しております。また将来に向けて物流センターの自社運営を見据えており、製造・配送・販売までの一連の効率改善を目指し取り組んでおります。

〔その他〕

・「支援活動」

グループコンセプトである「Enjoy Life!」の考え方にに基づき、2020年7月からUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の公式支援窓口である、国連UNHCR協会に店舗スペースを提供し実施する「国連難民支援キャンペーン」や、「トルコ南東部地震救援募金」などグローバルな人道支援を行いました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より318百万円減少し60,600百万円となりました。これは主に、リース資産の減少によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より1,856百万円減少し26,999百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より1,537百万円増加し33,600百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は2,679百万円（前連結会計年度末比159百万円の減少）となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動により獲得した資金は4,003百万円（前年同四半期は2,460百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動により支出した資金は1,020百万円（前年同四半期は1,678百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動により支出した資金は3,142百万円（前年同四半期は1,033百万円の支出）となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の小売業界の見通しにおきましては、社会経済活動の正常化への兆しや、コロナ渦での家計貯蓄の積み上がりに加え賃金上昇が見込まれる一方、外出機会の増加に伴う消費生活の変化、物価高による消費マインドの低下が懸念される等、業績動向の見極めは非常に困難であります。しかしながら、当社は、今後とも「Enjoy Life!」コンセプトのもと、毎日の食生活を通じて、地域の皆様の健康で笑顔あふれる豊かな人生をサポートすることで、人々の幸せと健康寿命の延伸を実現してまいります。

2023年9月期の連結業績予想につきましては、2022年11月11日に公表いたしました「2022年9月期決算短信」から変更はありません。今後、業績に大きな影響を及ぼす事項が発生した場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,838	2,679
売掛金	2,533	2,715
商品	3,186	3,237
貯蔵品	12	10
その他	1,765	1,716
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	10,332	10,355
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,570	12,430
機械装置及び運搬具（純額）	354	327
土地	21,164	21,164
リース資産（純額）	4,243	4,046
建設仮勘定	77	392
その他（純額）	1,499	1,415
有形固定資産合計	39,910	39,776
無形固定資産	163	194
投資その他の資産		
投資有価証券	209	259
長期貸付金	159	144
差入保証金	6,544	6,275
賃貸不動産（純額）	392	392
繰延税金資産	2,428	2,412
その他	793	802
貸倒引当金	△14	△12
投資その他の資産合計	10,513	10,273
固定資産合計	50,587	50,244
資産合計	60,919	60,600

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,722	9,168
短期借入金	3,300	1,800
1年内返済予定の長期借入金	1,791	1,316
リース債務	519	515
未払費用	3,216	2,930
未払法人税等	789	1,131
賞与引当金	554	518
資産除去債務	51	76
その他	443	744
流動負債合計	19,388	18,202
固定負債		
長期借入金	855	320
リース債務	4,471	4,215
長期預り保証金	1,335	1,261
役員退職慰労引当金	381	400
退職給付に係る負債	1,342	1,372
資産除去債務	1,047	1,193
その他	34	33
固定負債合計	9,467	8,797
負債合計	28,856	26,999
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	2,865	2,867
利益剰余金	26,711	28,198
自己株式	△277	△268
株主資本合計	31,959	33,457
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	57
退職給付に係る調整累計額	50	54
その他の包括利益累計額合計	73	111
非支配株主持分	29	31
純資産合計	32,063	33,600
負債純資産合計	60,919	60,600



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	64,303	69,295
売上原価	48,005	52,576
売上総利益	16,298	16,718
営業収入	1,144	1,201
営業総利益	17,442	17,920
販売費及び一般管理費	14,172	15,092
営業利益	3,269	2,827
営業外収益		
受取利息	19	17
受取配当金	4	4
不動産賃貸料	63	63
受取手数料	131	130
保険解約返戻金	2	—
その他	104	102
営業外収益合計	325	318
営業外費用		
支払利息	11	8
不動産賃貸費用	49	49
新型コロナウイルス関連費用	16	—
その他	1	1
営業外費用合計	78	59
経常利益	3,516	3,086
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	1
損害賠償引当金戻入額	20	—
資産除去債務戻入益	7	—
特別利益合計	27	1
特別損失		
固定資産除却損	4	3
減損損失	—	260
特別損失合計	4	264
税金等調整前四半期純利益	3,540	2,823
法人税、住民税及び事業税	1,149	1,005
過年度法人税等	—	△43
法人税等合計	1,149	962
四半期純利益	2,390	1,861
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,388	1,859

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	2,390	1,861
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	34
退職給付に係る調整額	3	3
その他の包括利益合計	7	37
四半期包括利益	2,398	1,899
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,396	1,897
非支配株主に係る四半期包括利益	2	2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,540	2,823
減価償却費	902	1,083
減損損失	—	260
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△43	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	△35
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	10	19
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	△1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	47	34
受取利息及び受取配当金	△23	△22
支払利息	11	8
固定資産除却損	4	3
損害賠償引当金戻入額	△20	—
資産除去債務戻入益	△7	—
保険解約返戻金	△2	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△87	△182
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△100	△49
未収入金の増減額 (△は増加)	△81	160
仕入債務の増減額 (△は減少)	141	445
未払費用の増減額 (△は減少)	△570	△158
その他	△29	241
小計	3,687	4,632
利息及び配当金の受取額	4	5
利息の支払額	△11	△8
法人税等の支払額	△1,220	△625
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,460	4,003
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,822	△1,135
無形固定資産の取得による支出	△22	△60
貸付けによる支出	—	△5
貸付金の回収による収入	18	18
差入保証金の差入による支出	△68	△0
差入保証金の回収による収入	243	185
保険積立金の解約による収入	4	—
保険積立金の積立による支出	△21	△22
資産除去債務の履行による支出	△9	—
その他	△0	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,678	△1,020
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,100	△1,500
長期借入金の返済による支出	△1,617	△1,009
リース債務の返済による支出	△132	△259
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△382	△372
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,033	△3,142
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△251	△159
現金及び現金同等物の期首残高	3,258	2,838
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,007	2,679

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)

当社は、2023年1月13日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として2023年2月2日を期日とする自己株式の処分(4,777株)を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が2百万円増加し、自己株式は8百万円減少しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる影響はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2021年10月1日 至 2022年3月31日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	64,102	201	64,303	—	64,303
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	64,102	201	64,303	△0	64,303
セグメント利益	3,243	26	3,269	—	3,269

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	69,075	219	69,295	—	69,295
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	69,075	220	69,295	△0	69,295
セグメント利益	2,794	32	2,827	—	2,827

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スーパーマーケット事業」のセグメントにおいて、退店の意思決定をした店舗について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において260百万円であります。

(収益認識関係)

当第2四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年3月31日)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計
	スーパーマ ケット事業		
商品の販売(売上高)	64,102	201	64,303
その他(営業収入)	455	6	462
顧客との契約から生じる収益	64,558	207	64,765

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. 四半期連結損益計算書上の営業収入に含まれる顧客との契約から生じる収益以外の収益は、当第2四半期連結累計期間において681百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2023年3月31日)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計
	スーパーマ ケット事業		
商品の販売(売上高)	69,075	219	69,295
その他(営業収入)	427	9	437
顧客との契約から生じる収益	69,502	229	69,732

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. 四半期連結損益計算書上の営業収入に含まれる顧客との契約から生じる収益以外の収益は、当第2四半期連結累計期間において764百万円であります。